

◆中学入試算数 速報・講評【武蔵中学】

例年通り、このレベルの男子校には無理な問題がなく、バランスのいい問題が目立ちます。多くの学校が出題する立体図形問題を平成25年以降出題していませんが、平面図形問題は毎年出題されます。

おそらく、生まれ持ったのセンスとされがちな要素を含む立体図形の問題を意図的に敬遠しているのではないのでしょうか。

(講評者が、空間図形が生まれ持ったのセンスのみで差が分かれる分野と思っているわけではありませんが)

今年は大問2、3、4がとてもオリジナリティーのある出題で、そのうち後半2題が、最も思考力を問われる整数問題です。

同校の出題スタイルは昔から非常に一貫していますが(例えば、講評者の知る限り、純粋な計算問題を出題したことがない等)、2020年大学入試改革を受け、より思考力重視に出題の傾向を少しシフトしたように思います。

それでは、各問講評です。

大問1

平易な問題2題

大問2 通過算

一般の受験生には見慣れない設定にアレンジしているものの、本質を理解していれば無理なく解ける良問です。

大問3 整数問題、つるかめ算

日常生活に根ざした設定ながら、非常に整数感覚が試される素晴らしい問題です。

整数感覚といっても、持って生まれたセンスというよりは、

日々の学習や日常生活で、どれだけ数を使ってまるで遊びのように考えてきたか、が問われます。

(1)が2変数だったのに対し、(2)は3変数になりますが、大学入試数学まで含めたセオリー通り、

3変数もいかに2変数として考えられるか、ということが解く鍵となります。

大問4 整数

本文のような数を操作する問題は、武蔵を受ける受験生であればほぼ全員解いたことがあるでしょう。

その上で、(1)(2)の誘導を用いて、更に大きい数に抽象して考えることができるかを問う、ヒントも含めて絶妙な良問です。

このような誘導に添い、出題者の意図に気づくことは、小学生にはかなり高度なことです。

小学校低学年から5年生くらいまでの間に、自分自身で迷路をはじめとして、あれこれ意欲的に問題・クイズを作った経験が

実は差を分けるひとつの要素です。